

滋賀県の最高峰、伊吹山のことは第1話で紹介しました。今回は少し視点を変えて、今回は少し視点を変えて、もう一度紹介することにします。

伊吹山は、平安時代の初めには、比叡、比良、神峰、愛宕、金峰、葛城諸山とともに、薬師悔過の修行場として「七高山」のひとつに数えられていました。悔過とは、仏に対して罪や穢れを懺悔してその加護を得ようとする修行で、吉祥天を始め多くの仏が悔過の対象とされます。その中でも薬師如来に対する悔過が現世の利益を得るためか、最も盛んに行われていました。薬師如来と水、そして琵琶湖との深い関係については第13話「白鬚神社」、第29話「日吉大社」で紹介しました。

伊吹山麓には西から伊吹神社、三之宮神社、勝居神社、泉神社等の神社が鎮座してい

ますが、これらのいずれもが、境内から豊かな水が湧き出るなど、水との関わりが深い神社です。特に三之宮神社は、伊吹山修行の祖とも言つべき三修上人が入寂した山頂の弥勒堂を一之宮とし、磐坐のあるシャクシの森を二之宮とし、伊吹の神と人が接する登拝口を三之宮としたと考えられます。さらに三之宮の社殿近くから清冽な水が湧き出ています。この湧水を地元では「ケカチの水」と呼び、大切にしています。「ケカチ」とは「悔過池」のこと。まさしく、三之宮神社は、薬師悔過を象徴する神聖な水の湧き出る処に祀られているのです。また、伊吹山麓には「太鼓踊り」と呼ばれる芸能が広く

伊吹山と信仰



ケカチの水

伝えられています。この踊りは、伊吹山の神に対する雨乞いや、雨の恵みに対する返礼のために奉納されるもので、美しく着飾った大勢の踊り手が太鼓を打ち鳴らしながら群舞します。響く太鼓の音は雨を呼ぶ雷鳴を表しているともいわれています。この踊りは伊吹山麓の集落で数年おきに奉納されますが、今年（2010年）10月3日には、5年ぶりに三之宮神社を舞台に、上野地区の踊り手による伊吹山奉納太鼓踊りが奉納されました。

さて、伊吹山麓が豊かな湧水に恵まれている原因は、伊吹山の特殊な土質にあります。伊吹山はほぼ全山が石灰

神の靈氣を花に宿して

岩で構成されており、降り注いだ雨や、雪解けの水は、岩の細かな亀裂を通して地下に浸透して麓に湧き出るので、従って山頂や山腹には高燥な地が広がり、木本植物が生長しにくいいため、草原植物群落が広く形成されています。多くの人達でにぎわう伊吹山のお花畑です。お花畑は天然記念物に指定され、花を摘むことはできませんが、かつては、ここでお盆を前に山麓の人達が花を摘む「盆花とり」が行われていました。早朝に村人が連れ立って伊吹山に登り、仏壇やお墓に供える花を摘むのです。伊吹の神の靈氣を花に宿らせて里に運ぶ行事なのでしょう。そして、一緒に山に登れなかった家には、摘んできた花を分けてあげることのできた。このことを話してくれたおばあさんに「お花を貰ったときの気持ちはどう？」と聞いてみたら「そろそろうれしいわな」とにこやかに話してくれました。神を迎える喜びを感じる一言でした。（財団法人滋賀県文化財保護協会 大沼芳幸）